



# 視覚に障がいのあるお客様向け 鉄道施設利用の体験会

東武鉄道株式会社

2024年3月13日

# 体験会概要



## 目的

視覚に障がいのあるお客様がより安全に安心して鉄道施設を利用できるよう、実車および訓練線の設備を使用した体験会を実施し、鉄道を利用する上での注意点を把握していただくとともに、鉄道職員が案内する際に把握しておくべき障害特性を含めた留意点を把握することを目的とする。

## 実施日

2024年2月8日(木)

## 場所

南栗橋車両管区春日部支所構内 訓練線(埼玉県春日部市)

浅草駅———春日部駅——北春日部駅——東武動物公園駅

訓練線

館林方面

東武日光方面

## 臨時列車

運転区間 : 浅草駅 ~ 春日部支所構内訓練線 往復  
車 両 : 特急スペーシア(6両編成)

## 参加団体

東京都盲人福祉協会  
千葉県視覚障害者福祉協会

## 参加人数

約150名



## 体験内容① 非常梯子を使用した降車体験

- ・異常時に駅間で列車から降車する状況を想定し、実車を使用して非常梯子で降車する体験



### 【成果・感想】（参加団体）

- ・想像していたより電車から地上までの高さがあり驚いた。電車はもっと低いと思っていた。
- ・非常梯子の踏み台の部分が想像していたよりも幅が狭く感じ不安だった。
- ・通常では体験できないことなので貴重な体験となった。

## 体験内容① 非常梯子を使用した降車体験

- ・異常時に駅間で列車から降車する状況を想定し、実車を使用して非常梯子で降車する体験

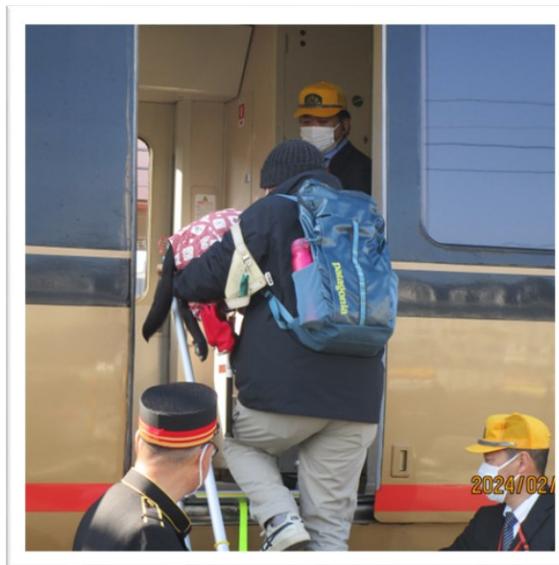


### 【成果・感想】（社員）

- ・後ろ向きで降車するようご案内していたが、人によって安心感が得られる向きに違いがあることに気づき、まずは体の向きを伺ってから介助することを意識した。
- ・白杖を使用した方が良いのか、両手で手摺りをつかむ方が安心なのか判断に迷った。
- ・非常梯子を使用する際には、当事者に希望を伺うこと、非常梯子の段数や踏み台の幅などの情報をより具体的に伝えることが、安全確保と当事者の不安解消につながることを把握できた。

# 体験内容① 非常梯子を使用した降車体験

・盲導犬を非常梯子で降車させる訓練



### 【課題】

- ・盲導犬を安全に負担をかけることなく降車させる対応方
- ・貴重な体験をすることができたと参加者から感想があった一方で、体の向きや白杖なしの場合など、様々なパターンで体験したかった等の感想もあり、より有意義な体験会をおこなうには、参加人数や時間配分など検証していく必要もある。



## 体験内容② 訓練線内の踏切を使用した体験

- ・踏切内に取り残された際に遮断桿を自力で持ち上げ踏切内から脱出する体験



### 【成果・感想】

- ・警報音が鳴動した際、踏切内にいるのか外側にいるのかが不安であったが、遮断桿を実際に触り持ち上げることで、外側には押すことができ脱出できたが、内側には曲がらない仕組みになっていて相当な力で押さないと内側には遮断桿を曲げることができないことを把握した。
- ・自分の立ち位置が踏切内なのか外側なのか不安な時は、遮断桿の真下にしゃがみ込み避難することも一つの方法であると思った。

## 体験内容② 訓練線内の踏切を使用した体験

- ・踏切内に取り残された際に遮断桿を自力で持ち上げ踏切内から脱出する体験



### 【成果・感想】

- ・遮断桿を手で持ち上げて脱出する発想はなかった。実際に持ち上げてみると力が必要だと感じた一方で、どのくらい力を入れれば脱出できるかを把握できたことは、今後の安心感につながった。
- ・遮断桿がどのように降りてくるのか、実際に遮断桿の元まで触れることで仕組みを知ることができたのは貴重な体験であった。

## 体験内容③ 訓練線内の踏切を使用した体験

・歩行訓練指導員による歩行指導



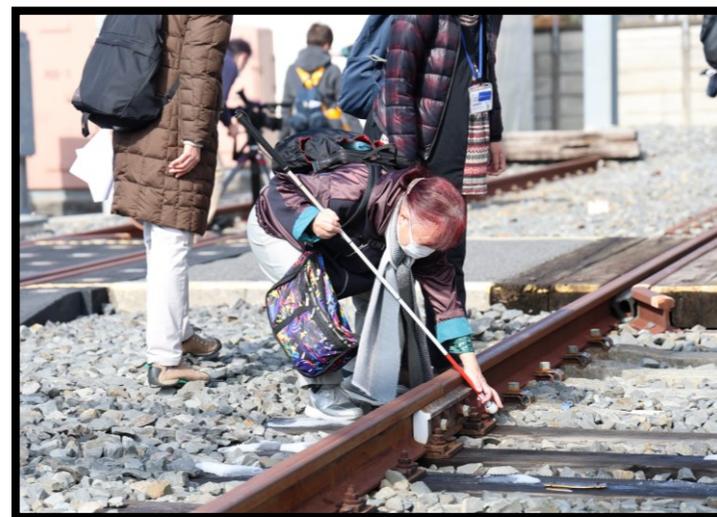
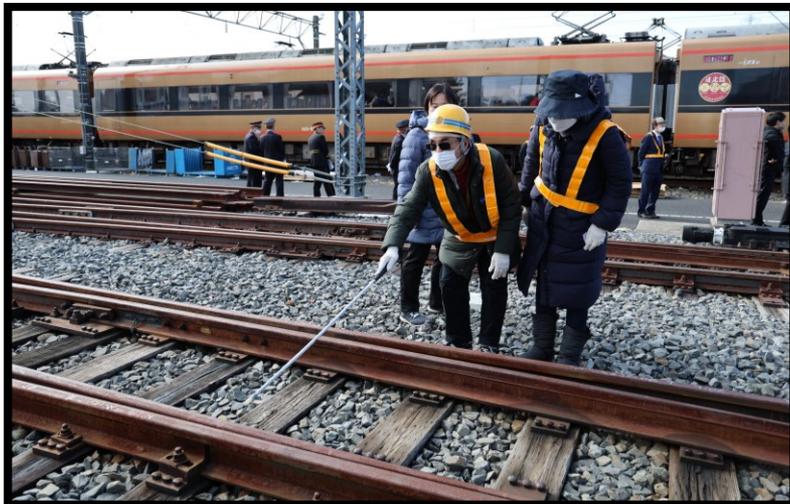
### 【成果・感想】（介助者）

どのような声かけでガイドすれば、白杖や足がレールの溝に入ることなくスムーズに踏切内を歩行できるかを学ぶことができ貴重な体験となった。



## 体験内容③ 訓練線内の踏切を使用した体験

- ・踏切内や線路内を自由に歩行し段差や溝の深さ、レール形状、線路幅などを体験



## 体験内容③ 訓練線内の踏切を使用した体験

- ・踏切内や線路内を自由に歩行し段差や溝の深さ、レール形状、線路幅などを体験



### 【成果・感想】

- ・思っていたよりレールの溝が深くないと感じた。
- ・白杖がレールの溝に引っかかることはあっても、抜けなくなることはないことを把握した。また、白杖がレールの溝に引っかかった数を覚えておくことで、踏切のどのあたりまで渡ってきたか自分の現在地を把握するイメージが沸いた。
- ・碎石の上は歩きにくかったが、異常時には歩く可能性もあるため、良い経験になった。

### 【課題】

- ・踏切の形状等は場所や複線・単線等によって違いがあるため、今回のような体験会を通じて様々な情報を提供していく必要があることを認識しました。
- ・碎石の上を歩行する際は、歩きにくく白杖も引っかかってしまうため、介助者の誘導が重要であることを再認識しました。



今回の体験会は、実車および鉄道施設を使用し、実際に視覚に障がいのあるお客様に通常時では体験できない線路内歩行や踏切内の脱出体験などの機会を提供することで、当社社員にとっても相互に理解を促すことができたと実感しております。

今後についても、合理的配慮が必要なお客様の行動特性やご案内するうえでの注意点などを理解し、地域関係機関と連携して鉄道施設を安全に安心してご利用いただけるよう、今回のような体験する機会の提供を引きつづき検討し、「人にやさしく 人と地域が共に輝き続ける社会」の実現に向け、安全・安心で快適な質の高いサービスの提供を目指してまいります。

ご清聴ありがとうございました